

組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名:

歯学部

部局長名:

窪木 拓男

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p> <p>①-1 目標</p> <p>1) 診療参加型臨床教育の充実 (背景:全国的に展開される「歯学教育の改善・充実」に対応するため) 達成目標と実習項目を明確化する。臨床教授、臨床准教授、臨床講師制度を利用し、学外医療機関の臨床教育への参画を推進する。特に、周術期管理や在宅介護現場で活躍できる歯科医師を育てることが出来る教育システムを開発する。</p> <p>2) 60分授業とクォーター制を組み合わせたカリキュラム改革 (背景:大学の組織目標を先行学部として実施するため) 編入学制度の改革と新しい教育ニーズをカリキュラムに組み込む準備を進める。</p> <p>3) シミュレーションシステムやIT活用による効率的な教学システムを構築 (背景:教育に費やせる人的資源の減少に対応するため) シミュレーションシステムの老朽化に対応して改修を行い、新たに学生証(ICカード)を用いた電子出席管理システムや電子歯学部棟入退室システムなどを試行する。</p> <p>4) 歯学教育・国際交流推進センターを開設 (背景:歯学教育改革や国際交流の推進に歯学部として対応するため) 歯学部執行部のもとに、URAとしての機能をもつ組織を置き、機動的に教育改革や国際交流を推進する。大学間・部局間交流協定の締結を進め、歯学部生の短期留学制度の充実を図る。</p>	<p>自己評価</p> <p>1) 診療参加型臨床教育の充実 ● 文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」に、岡山大学が全国の10大学を率いて申請した「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革」が採択され、今年度が2年目となる。新たに、電子授業システムを構築し、災害時医療、周術期医療・がん支持療法、在宅医療、生活習慣病に関する電子授業シリーズを構築し、連携大学と共有するシステム作りを行った。また、長崎大学や鹿児島大学と連携して、離島実習を全国公募した。連携大学である昭和大学において、平成27年10月22、23日に連携シンポジウムを開催し、歯学教育改革コンソーシアム運営会議を開催するとともに、文部科学省医学教育課 島居剛志課長補佐にご挨拶を頂いた。</p> <p>● 全国的に有名な周術期管理センターを利用した「高度医療支援・周術期口腔機能管理実習」を開始し、全国の連携大学に公開を開始した。</p> <p>● 在宅・訪問歯科診療参加型臨床実習を実施する学外教員を「在宅・訪問歯科診療教育担当臨床講師」として正式に17名任用した。この学外教員のFDのために、在宅・訪問歯科診療教育シンポジウムを平成27年9月24日と平成28年3月13日に行い、臨床実習の必修項目として在宅・訪問歯科診療参加型臨床実習を実施した。</p> <p>● 学部長が岡山県歯科医師会に出向き、3名の在宅・訪問歯科診療教育担当臨床講師をご推薦頂き、地域医療機関と密接に連携した在宅・訪問歯科診療参加型臨床実習を開始した。</p> <p>● 国際分野別認証評価に対応するために、臨床実習担当教官の資格審査の厳格化を行い、教務委員会で正式に認定作業を行った。また、臨床実習に貢献して頂ける患者様の意思の確認を厳格化し、患者の意思に反して臨床実習に投入されることがないように、予診室で対応した。米国の分野別認証評価に関わっている外国機関の教員に岡山大学歯学部の評価トライアルを御願ひし、国際認証評価への対応を開始した。</p> <p>2) 60分授業とクォーター制を組み合わせたカリキュラム改革 ● 学士編入学時期を3年次から2年次に変更し、収容定員増となる平成28年度概算要求事項として承認された。</p> <p>● 教務委員会カリキュラム検討部会において大規模なカリキュラム再編成を行い、臨床実習の延長、屋根瓦方式の2学年共同実習期間の設定、TBL等のアクティブラーニングの導入、レギュラトリーサイエンス入門(歯学部・歯学部共同講義)、課題解決型高度医療人材養成プログラム対応授業・演習・実習など、新たな先進的カリキュラムの追加を行い、平成28年4月より完全60分授業に対応した。</p> <p>3) シミュレーションシステムやIT活用による効率的な教学システムを構築 ● 要介護高齢者を模倣した岡大式シミュレーターを製作し、在宅・訪問歯科診療の基礎的なトレーニングを行うシステムを整えた。また、要介護高齢者支援施設を利用したPBL演習を継続し、連携大学に初めて公開した。</p> <p>● 臨床実習で、タブレットPC上で操作が可能な電子ログブックシステムを運用し、臨床実習場面を撮影したビデオを利用するなど、ICTの積極的な活用に努めた。</p> <p>● ICカード型学生証を用いた歯学部棟入退室システム、授業の出席管理システムを整備した。各講義室を、電子授業に対応するためにネットワークの整備、サーバーの改修を行った。</p> <p>4) 歯学教育・国際交流推進センターを開設 ● 平成27年4月、歯学教育・国際交流推進センターを開設し、国際交流担当助教、国家試験対応・医療支援歯科担当助教、大学院学務電子システム・Institutional Research担当助教を配置した。国際交流に関しては、短期留学制度(ODAPUS)における海外の提携大学の増数に努めた。今年度は、ソウル国立大学(韓国)、西プルーターニュー大学(フランス)、オハイオ州立大学(米国)、オタゴ大学(ニュージーランド)、ヤンゴン歯科大学・マンダレー歯科大学(ミャンマー)と新たに部局間交流協定を結んで、歯学部3年次生を16名海外短期留学へ派遣した。また、これらの連携校からの短期受入は25名(平成28年4月まで)に達した。</p> <p>5) 客観的指標(小数点四捨五入) ● 平成27年国家試験合格率:新卒87%、総数80%(全国歯学部3位/29校) ● 平成28年国家試験合格率:新卒82%、総数79%(全国歯学部7位/29校) ● 平成27年度研修歯科医マッチング率:100%。</p>
<p>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>1) 国家試験合格率 2) 研修医マッチング率</p>	<p>3) シミュレーションシステムやIT活用による効率的な教学システムを構築 ● 要介護高齢者を模倣した岡大式シミュレーターを製作し、在宅・訪問歯科診療の基礎的なトレーニングを行うシステムを整えた。また、要介護高齢者支援施設を利用したPBL演習を継続し、連携大学に初めて公開した。</p> <p>● 臨床実習で、タブレットPC上で操作が可能な電子ログブックシステムを運用し、臨床実習場面を撮影したビデオを利用するなど、ICTの積極的な活用に努めた。</p> <p>● ICカード型学生証を用いた歯学部棟入退室システム、授業の出席管理システムを整備した。各講義室を、電子授業に対応するためにネットワークの整備、サーバーの改修を行った。</p>
<p>②研究領域</p> <p>②-1 目標</p> <p>1) 歯学教育に関する調査・研究の推進 (背景:歯学教育や研究を、有病者医療や在宅介護現場に適応させるため) 周術期管理やがん支持療法国際学会を7月に岡上で主管する。</p> <p>2) 研究実施体制等の整備 (背景:外部資金獲得を維持する) 歯学系構成員による文部科学省科学研究費の申請および採択率は従来より高く、特に申請数については上限に近づいている。これらの数値を維持しながら同一人による複数種目の申請を目指し、採択率のさらなる上昇を図る。</p> <p>3) 歯学部先端領域研究センターの充実と共同利用施設の改革 (共同研究に関する環境・資源・整備等の提供) 平成25年度に発足させた「歯学部先端領域研究センター」を本格運営させ、また従来から存在する歯学部共同利用施設の使用規則等の改訂を行うことにより、さらなる利便性の向上を図る。その結果として研究業績の向上を目指す。また、平成25年度から行っている歯学系教員が主催する研究会「BioForum」を継続し、学内外との共同研究の促進を図る。</p> <p>4) その他の研究活動は、研究科(歯学系)に準ずる。</p>	<p>自己評価</p> <p>1) 歯学教育に関する調査・研究の推進 ● 歯学部が主催したものとして、在宅・訪問歯科診療教育シンポジウム(平成27年9月24日、平成28年3月13日)、災害時医療の実際(平成27年8月8日)、周術期医療・がん支持療法の実践(平成27年8月29日、30日)、みんなで取り組む生活習慣病(平成27年12月3日)、みんなで取り組む在宅医療(平成27年12月18日、19日)などがある。</p> <p>● 文科省 課題解決型高度医療人材養成プログラムの事業の一部として、「日本ががん口腔支持療法学会」が、岡山大学病院医療支援歯科治療部教員により立ち上げられ、平成28年3月に第1回学術集会を開催した。</p> <p>2) 研究実施体制等の整備 ● 文部科学省科学研究費の申請および採択率 歯学系教員による文部科学省科学研究費の申請数102件(退職直前の教員2名を除く全員申請)、新規採択率44.1%で高い水準を維持した。本結果は、全国の国立大学歯学部の中で同率3位、岡山大学の主要部局の中でトップの成果であった。</p> <p>● トムソンライターの歯学部関連欧文論文の総論文数(全国国立大学3位)、総引用度数(全国国立大学3位)等と高値を維持した。</p> <p>3) 歯学部先端領域研究センターの充実と共同利用施設の改革 ● 歯学部先端領域研究センターのセンター長に特任教授1名を任命し、専任教員2名、JSPS外国人特別研究員2名を専属構成員として配置し、各教育研究分野に運営委員を置く全学部支援体制を構築した。ホームページを立ち上げるとともに、毎月運営委員会を中心としたARCOCSセミナーを実施し、分野を超えた共同研究の活性化を図った。</p> <p>● 歯学部共同利用施設管理運営内規を制定し、共同利用施設の利便性を向上させた。</p> <p>● 歯学系若手教員主催研究会「BioForum」を開催し、学内外との共同研究の促進を図った。</p>
<p>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>1) 科学研究費の新規採択率 2) 取得者率</p>	<p>3) 歯学部先端領域研究センターの充実と共同利用施設の改革 ● 歯学部先端領域研究センターのセンター長に特任教授1名を任命し、専任教員2名、JSPS外国人特別研究員2名を専属構成員として配置し、各教育研究分野に運営委員を置く全学部支援体制を構築した。ホームページを立ち上げるとともに、毎月運営委員会を中心としたARCOCSセミナーを実施し、分野を超えた共同研究の活性化を図った。</p> <p>● 歯学部共同利用施設管理運営内規を制定し、共同利用施設の利便性を向上させた。</p> <p>● 歯学系若手教員主催研究会「BioForum」を開催し、学内外との共同研究の促進を図った。</p>

③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
<p>③-1 目標</p> <p>1) 社会貢献の体制を確立する (背景: 生涯教育と情報発信の基地としての役割を強化する) 病院や研究科との連携を強化し社会貢献を効率良く実施するため、岡山歯学会、同窓会、社会(医療関係者等)と広く意見交換を行い、情報発信ができる体制を確立する。</p> <p>2) 地域保健活動の推進 (背景: 予防医学の立場から地域保健活動が求められているため) 保健所等の地域行政機関と協力して、情報収集、情報提供を通して地域住民に貢献する。口腔がん検診を実施する。</p> <p>3) 国際交流の推進 (背景: ASEAN等と連携をとり、日本の歯科医療システムや機器の国際進出を助ける) ベトナムに国際歯科センターを設立し、産学連携で邦人の医療支援を支える。ミャンマーの医療支援に参画する。</p> <p>4) 地域医療については、大学病院に準ずる。</p>	<p>1) 社会貢献の体制を確立する</p> <p>●岡山県の委託事業(岡山県医療介護総合確保基金を活用する事業)として、「要介護高齢者の低栄養を防ぐための医師・歯科医師と管理栄養士による口腔栄養関連サービスの推進」を行った。県内3カ所の拠点(岡山[平成27年10月18日]、津山[平成27年12月6日]、倉敷[平成28年3月13日])で、講演会とワークショップを開催し、平成27年4月の介護保険改訂に対応する多職種連携のあり方を教育した。</p> <p>●岡山県の委託事業では、さらに「在宅医療におけるICT導入事業」が採択され、ウェアラブルカメラを用いた在宅歯科診療教育へのICTの応用を進めている。また、「重症心身障害児(者)における歯科医療の推進」事業も採択され、平成28年2月28日に講演・シンポジウムを行い、岡山大学病院と旭川荘の拠点病院と地域の歯科医療機関の積極的な意見交換を行った。</p> <p>●歯学部主催、岡山県歯科医師会共催、岡山県後援により、岡山県の条例で制定された11月8日の歯科健康増進活動である「いい歯の日」において、第1回県民講座「歯と健康を考える集い」を開催し、県民の歯科医療意識の向上に貢献した。</p> <p>2) 地域保健活動の推進</p> <p>●授業の一貫として、保健所の検診に歯科医師を派遣し、検診活動および情報提供活動を積極的に行った。</p> <p>●口腔がんの早期発見にむけた開業歯科医師むけの実習形式の講座を開催した。さらに、がんプロフェッショナルコースの一部として、口腔がんの診断、治療、栄養管理、口腔ケア、摂食嚥下リハビリテーションへの取り組みを教育、中四国の口腔がん教育の中心的拠点として、専門医の育成に尽力している。</p> <p>3) 国際交流の推進</p> <p>●ベトナムハイフォン医科薬科大学の「国際歯科センター」を継続して維持、現地邦人やベトナム人の歯科医療をサポートするとともに、ハイフォン医科薬科大学の歯学教育研究を支援している。また、三菱商事や野村総研などとともに、ハイフォンのODA開発に参画、歯科医療機器メーカーとともに日本式医療システムや医療機器メーカーの国際進出を支援している。</p> <p>●アジア地域の医療支援体制の拠点となるべく、シンガポールと上海の医療拠点に歯科医師を派遣、継続的に日本企業従業員の歯科治療を中心とした後方支援を行った。</p> <p>●国立六大学国際連携機構の共同プロジェクトとしてミャンマーの歯学部支援に尽力、歯科系代表副院長を中心に、ヤンゴン歯科大学、マンダレー歯科大学の学長を招聘し、部局間交流協定を締結、国費外国人留学生の受入、手術協力、歯学教育研究を支援した。</p> <p>●クォーター制を利用した研究室配属と短期留学制度を推進し、海外派遣と受入を行った。今年は、16名の岡山大学歯学部生を、オハイオ州立大学、フィニステラエ大学、チャールズスタート大学、マヒドン大学、サンパウロ大学、ハイフォン医科薬科大学、台北医学大学に派遣した。一方、サンパウロ大学、オタゴ大学、ハイフォン医科薬科大学、台北医学大学、フィニステラエ大学、ハサスディン大学から歯学部生を20名招き、学生主催のウエルカム事業、英語授業シリーズ(2単位)の実施、倉敷美観地区・吉備津社等の小観光旅行を企画した。</p> <p>●平成27年度の歯学部生の海外派遣事業は、各種大学機能強化戦略経費、日本学生支援機構(JASSO)の補助金採択を頂き、経済的な支援が可能となった。平成28年度のJASSO補助については、派遣、受入両面の2件が採択された。教員レベルの国際交流事業に関しては、JUSTのサクラサイエンスプランに2件採択され、ベトナム北部2大学とインドネシアから、各々2名(総計6名)の教員が訪れ、3週間の共同研究事業を行った。</p> <p>4) 客観的指標</p> <p>●歯科系病院 外来診療報酬請求総額 全国4位、総外来患者数 全国5位。 ●部局間交流協定数: 21件(平成27年度末) ●大学間交流協定数: 5件(平成27年度末)</p>
<p>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>1) 診療報酬請求総額</p> <p>2) 患者のべ総数</p> <p>3) 部局間、大学間交流協定の締結数</p>	
<p>【総括記述欄】</p> <p>歯学部の状況は概してよい。課題解決型高度医療人材養成プログラムを利用した授業の一部電子化は平成28年4月より実施される。東の東京医科歯科大学、西の岡山大学と並び称されるようになった教育改革拠点としての期待を裏切らないよう、中間評価に備えている。編入学制度の2年次への変更、60分授業への対応に関しても、準備状況は万全である。国家試験合格率が、平成26年度は全国歯科大学3位(29大学中)であったが、平成27年度は全国歯科大学7位(29大学中)と若干後退した。これに対しては、来年度の受験生はもとより、不合格となった積み残し学生に対して、早期からの受験対策を考えている。国際交流に関しては、歯学教育・国際交流推進センターの支援がうまくいっており、多くの交流協定締結校を得ている。女性教員数は順調に増加傾向で推移している。平成28年4月から、1名の外国人教員の任用が決定した。</p>	